

# 教育センター通信

## ほ ど 火床の火の心を紡ぐ

第4号 (通算 109号)  
令和5年7月26日

三条市教育委員会  
教育センター発行

小中一貫教育  
トップページ



交通安全指導・あいさつ運動

7月10日(月) 瑞穂学園

「子どもを大切にしたい授業を」

統括指導主事 吉田 卓司

三条市教育委員会では、子どもを大切にしたい授業づくりのためのガイドブックとして「三条市授業スタンダード」を発行しています。今年度はこれまでの取組をまとめた総編集版を発行しました。

「三条市授業スタンダード」は『スタートラニング』『学習問題◎』『対話』『まとめ』『振り返り』と「学習課題」「解決の見通し」をポイントとした授業の枠組の一例です。ここでは、「学習課題」「学習問題◎」の関係性について説明します。三条市教育委員会では、「学習問題◎」を「子どもの問題意識を基に表現され、学級で共有された問題」と位置付けています。そして学習問題◎をつくるための視点として以下の5つの子どもの状況を示しています。

- ・不確かな状況
- ・自分の考えと合わない事実
- ・事象との出会い
- ・複数の方法等からの選択
- ・よいモデルとの出会い
- ・意義や目標を共有

これらの状況を生み出すために、教師が意図的に提示する内容が「学習課題」となります。そのため、様々な考えが出されたり、もっとこうしてみたいという意識になるような課題を提示します。具体的には、理科であれば「事象提示を行った後に子どもに考えを問う」、算数であれば「既習内容から発展する課題に取り組ませる」などです。

その後、学習問題◎を設定します。子どもの言葉で提示するにしろ、授業者が提示するにしろ、学習問題◎を設定するのはあくまで授業者です。そのためには、学習課題への取組状況や子どもとの対話の中で、子どもがどのような状況にあるのかを見取ることが大切になります。例えば、「子どもがこう発言をしていたので、私が全体に問い返したら学級全体の子どもが首をかしげ『はっきりさせたい』と口々につぶやいたので、不確かな状況であると判断し学習問題◎を設定しました」などと説明できます。

子どもの問題意識に基づいた学習問題◎を設定することが、学ぶ意義を感じることにになり、その後の主体的な追求、追究へとつながります。

総編集版のあとがきにもあるように「三条市授業スタンダード」の考えに基づきながらも、授業展開の仕方を柔軟に考え工夫して行ってほしいと考えています。大切なことは子どもの“問題意識”を中核とした授業を行うことです。

授業づくりについての悩み等については、教育センター指導主事がいつでも学校に伺い、共に考えていきます。お気軽に連絡いただければ幸いです。

共に悩み、考え、子どもを大切にしたい授業づくりに取り組んでいきましょう！

## 学園紹介（一ノ木戸ポプラ学園）

一ノ木戸ポプラ学園では、自己有用感を高め、社会性を育むため、様々な場面で小学生と中学生による交流・協働活動を行っています。その一つとしてのリトルティーチャー活動を6月21日（水）に行いました。今回は、中学3年生が小学1年生の体力テストのシャトルランをサポートしました。中学生は「なかなか関わることのできない低学年とたくさん関わってすごく楽しかったし、とても良い運動になった」「また関わる機会があったら一緒に活動したい」、「小学生の記録を少しでも上げるために役立てていると感じた」、「とても癒やされた。2年生との活動が楽しみ」と振り返っていました。小学生からは「優しくてうれしかった」「記録が伸びた」という声が出ました。自然とお互いに拍手をする場面も見られました。次回は、振り返りにあるように中学3年生による小学2年生へのリトルティーチャー活動が予定されています。



小中で行ったリトルティーチャー活動【6月21日（水） 一ノ木戸小学校体育館】

## 学園紹介（瑞穂学園）

「おはようございます!!」

本成寺中学校1年生が出身小学校の西鱈田小学校と月岡小学校に出向いて、あいさつ運動を行いました。中学生と小学生の間で気持ちのよい元気なあいさつが飛び交いました。

中学生は久々に母校に戻り、小学生も久々に先輩と会い、あいさつを交わし合いました。小中学生の絆を深め合う良い機会となりました。

次回のあいさつ運動は9月です。中学校3年生が小学校に出向いて実施する予定です。



小中あいさつ運動【6月29日（木）月岡小学校】



小中あいさつ運動【6月30日（金）西鱈田小学校】

## 学園紹介（しただの郷学園）

しただの郷学園では、長沢・笹岡・大浦・森町・飯田の5つの小学校で、合同宿泊体験学習を行っています。今年度も5年生が国立妙高青少年自然の家で自然体験学習を、6年生が佐渡市での修学旅行を実施しました。

5校連合で実施するため、事前の児童交流会や職員の打合せ会の調整等、難しいことはありますが、小小連携や中1ギャップ解消に大変有効に働いています。6月に実施した修学旅行では、参加した多くの児童が旅行の楽しさだけでなく、他の小学校の仲間と交流を深めることができたと感じていました。また、今年度から共通のバンダナを用意しました。下田の児童だということが一目で分かり引率教職員が支援をしやすくなるとともに、児童の仲間意識も一層高まりました。しただの郷学園の伝統となっている行事です。



小学6年生合同修学旅行【6月22日（木）、23日（金） 佐渡市】

### 第1回三条学講座 歴史講座1「歴史の偉人 諸橋轍次博士」6月2日（金）開催

三条学講座は三条市内に勤務する教職員向けの講座で、計7回シリーズで実施しています。

【願い】 三条のよさ、すごさを知り、三条の「ひと」や「もの」、自然への理解を深めてほしい。それを子どもたちに伝え、「ふるさと三条」を愛し、誇りに思う子どもの育成につなげてほしい

6月2日（金）、諸橋轍次記念館で第1回の三条学講座を実施し、12人の受講者がありました。最初に開講式後、DVDの鑑賞及び展示物の参観をしました。

博士は、明治16年6月4日に下田村（現三条市）にお生まれになり、「大漢和辞典」の編纂等、生涯を通じて漢学研究に情熱を傾けられました。「大漢和辞典」の編纂者ある博士の偉業や人となりについて、当記念館の嘉代館長からの説明をいただき、博士の遺品、遺墨等に触れるとともに、漢学者とは別の、「教育者」としての生き方にも触れることができました。

諸橋轍次記念館は、三条市の名誉市民である諸橋轍次博士の偉業を学ぶことのできるすばらしい施設です。お時間を見付けて、来館してみてもいいでしょうか。



嘉代館長の展示物説明を受ける受講生  
（諸橋轍次記念館）

※11月11日（土）の第7回三条学講座（包丁づくり講座）は定員に余裕がありますので追加申込みが可能です。先着順で受け付けますので、希望される市内教職員は教育センター担当までお問い合わせください！

## 不登校児童生徒への対応力向上研修 7月6日(木)開催



三条市教育委員会の葛綿スクールソーシャルワーカーを講師に、カンファレンスシート作成時のポイントや、不登校の初期段階にある児童生徒や保護者への対応、関係機関との連携について研修しました。

カンファレンスシート作成の大きな利点は、シート一枚で、短時間で、俯瞰的に当該児童生徒について概要を把握

できることです。学校では、当該児童生徒の記録を時系列で記録に残します。ケース会議や小中学校間、学年間の引き継ぎの際、参加者全員がその記録全てに目を通すには時間がかかります。家族関係図や様々な視点からまとめられた情報が記載されているカンファレンスシートは、大変役に立ちます。なお、記入時点で、どうしても記入できない欄があることも情報の一つで、今後の支援につながります。研修では、カンファレンスシート記入のポイントの資料を配布しました。ぜひ、校内での共有をお願いいたします。

### ～参加者の感想～

- ・似たようなケースがあったり、様々なケースをもとに聞けたりしたため、これからの対応に少し自信がもてた。
- ・情報交換タイムも良かった。悩みを相談しやすかった。安心できるアドバイスをもらえた。

### 相談援助の基本「バイスティックの7原則」

- 1 個別化の原則（同じ問題は存在しない）
- 2 意図的な感情表現の原則（感情表現の自由を認める）
- 3 統制された情緒関与の原則（事例対象者にのみ込まれないようにする）
- 4 受容の原則（頭から否定せず、ありのままを受け入れる）
- 5 非審判的態度の原則（支援者の尺度で善悪を判じない）
- 6 自己決定の原則（自らの行動を決定する力の尊重と力を引き出す援助）
- 7 秘密保持の原則（「個人情報保護」対象者を不安にさせていないか）

「バイスティックの7原則」とは、アメリカのケアワーカーで、社会福祉学者のフェリックス・ポール・バイスティックが提唱した相談援助技術の基本原則です。

第2回の研修は、8月4日(金)です。参加者が持ち寄った事例をもとに、対応について意見交換を行います。引き続き、参加をお願いいたします。